

# 目黒のサクラ再生実行計画

## 呑川柿の木坂支流緑道及び呑川駒沢支流緑道 サクラ再生実行計画（概要版）

令和2年3月

目黒区

### 目次

■サクラ再生実行計画の考え方.....	1
■概況.....	1
■検討会及び現地調査会の開催.....	2
■樹木診断結果.....	2
■土壌基盤調査結果.....	3
■問題点の整理.....	4
■将来像の検討.....	5
■桜並木の将来像.....	6
■桜維持管理の検討.....	8
■住民参加による維持管理.....	10
■その他の提案.....	10

## ■ サクラ再生実行計画の考え方

桜は日本を代表する花として広く親しまれており、目黒区内にも目黒川や碑文谷公園等の桜の名所があり花見時には多くの人で賑わっている。しかし、区内にあるこれらの桜をはじめとした樹木は昭和50年代から昭和60年代に植栽されたものが多く、高齢化や生育環境の変化から樹勢が低下し、倒木や枝折れが懸念されている。

地域に親しまれる桜並木の風景を将来に引き継ぐため、現状の課題を整理し、桜景観の将来像や保全策について住民と協働で検討を行い、サクラ再生実行計画とする。

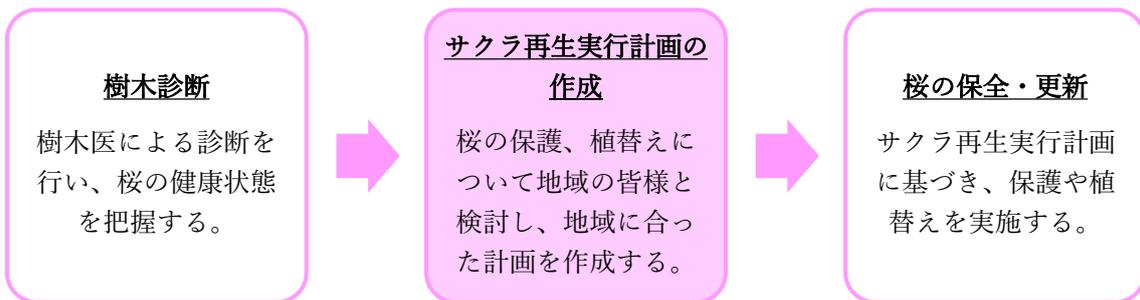


図 1 目黒のサクラ保全事業の流れ

## ■ 概況

対象地である呑川柿の木坂支流緑道及び呑川駒沢支流緑道は、各路線ともソメイヨシノは全般的に樹勢が旺盛で、多くの個体が今後も美しい花を咲かせると考えられる。

現況の緑道は、呑川にコンクリートの蓋をし、その上に盛土をして造られた人工地盤の上にあるため、土壌が浅く固まり易く、乾燥し易い土壌となっている。また、生育範囲が非常に狭く道路や住宅が近いため、大きくなるソメイヨシノは根を伸ばすことが出来ず、根上がりや樹勢不良、幹や大枝の腐朽が見られる樹木もある。今後そういった傾向はさらに強くなっていくと考えられる。



図 2 対象路線（呑川柿の木坂支流緑道及び呑川駒沢支流緑道）

## ■ 検討会及び現地調査会の開催

令和元年8月から12月にかけて、「呑川柿の木坂支流緑道及び呑川駒沢支流緑道 サクラ再生実行計画検討会」を3回、「目黒のサクラ再生実行計画 現地調査会」を1回開催し、住民を交えて桜の将来像について検討した。

回・開催日	テーマ	内容
第1回検討会 8月29日	桜並木の現状とこれからについて	<ul style="list-style-type: none"> <li>樹木診断結果の概要</li> <li>桜並木の問題点</li> <li>課題と今後の方向性</li> </ul>
第2回検討会 10月23日	桜並木の再生実行計画の検討	<ul style="list-style-type: none"> <li>桜並木の将来像の提案</li> <li>桜の品種紹介</li> <li>生育環境の改善方法の提案</li> </ul>  <p>第2回検討会ワークショップの様子</p>
第3回検討会 12月5日	桜並木の再生実行計画の検討	<ul style="list-style-type: none"> <li>桜の生育特性</li> <li>桜並木の将来像の検討</li> <li>再生に向けて必要となる対応策の提案</li> </ul>
第1回 現地調査会 11月11日		<ul style="list-style-type: none"> <li>桜の生育特性及び品種紹介</li> <li>土壌調査の体験</li> <li>現状の確認及び観察方法の説明</li> </ul>  <p>樹木医による現状の解説</p>

図 3 検討会及び現地調査会内容

## ■ 樹木診断結果

平成30年度に呑川柿の木坂支流緑道の桜108本、呑川駒沢支流緑道の桜45本について樹木診断を行った結果、呑川柿の木坂支流緑道は72本（66%）、呑川駒沢支流緑道は25本（56%）と、半分以上はA:健全か健全に近い状態であった。呑川柿の木坂支流緑道では、3本（3%）の桜がD:不健全木と判定された。

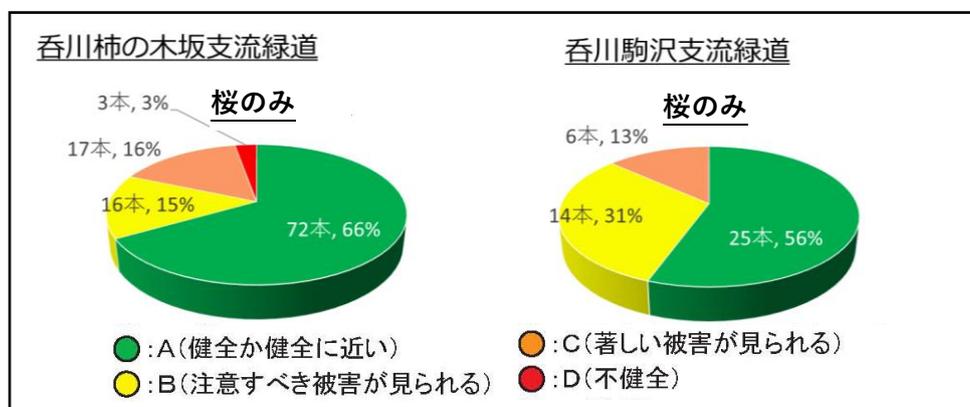


図 4 樹木診断結果

## ■ 土壌基盤調査結果

呑川柿の木坂支流緑道は、河川にコンクリート構造物により蓋掛をし、その上に整備された人工地盤上の緑道である。樹勢低下は土壌環境に要因があると推測でき、桜生育基盤の構造把握が必要不可欠であることから、呑川柿の木坂支流緑道及び呑川駒沢支流緑道について各路線3か所ずつ土壌調査を実施した。

長谷川式土壌貫入試験より、表層は軟らかい層もあるが、総じて土壌は硬く締まり、根の伸張阻害を生じていると言える。土壌は硬く、構造物に囲まれ、大きめの植木鉢と同じような環境である（図5）。

簡易土壌断面調査より、土色は、6地点中3地点で地表から深さ30cmが暗褐色であり、腐食に富んだ植栽に適した土壌であった。呑川駒沢支流緑道では腐食が不足気味であった。土性は、基本的には全て砂質土上で良好であり、呑川駒沢支流緑道では雑多な土壌や礫の攪乱土であった。土色の表示のない下の土層については非常に硬く、検土杖が貫入しなかった。乾湿は呑川柿の木坂支流緑道が半湿、呑川駒沢支流緑道が半乾であった（図6）。

透水試験より、全ての場所において判定は良好であった。

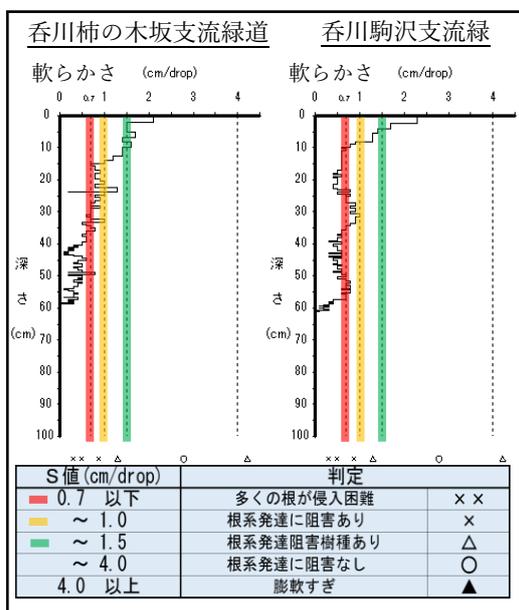


図 5 長谷川式土壌貫入試験結果



図 6 土壌断面調査結果

■問題点の整理

<p>桜の問題</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 梢端の枯れ、枯枝の増加、樹形の奇形化等の樹勢不良が見られる。</li> <li>• 枝折れ、剪定痕、幹や根の損傷等から腐朽が拡大している。</li> <li>• 腐朽が進むと根株や幹内部を普及させる子実体（材質腐朽菌）が現れる。</li> <li>• 内部組織が壊死する「がん腫病」やコスカシバによる穿孔、カミキリ類幼虫による幹の損傷が見られる。</li> <li>• 樹木間隔が狭く生育に影響が出ている。</li> <li>• 樹幹が重なり林床を暗くしている</li> </ul>	
<p>土壌の問題</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 今回対象とする呑川柿の木坂支流緑道及び呑川駒沢支流緑道は、根の育つ範囲が狭いため地上に根がせり上がり、地下等からの水分供給が困難である。</li> <li>• 土壌が浅く固いため根が側方・下方に伸長できず、表層を這うように伸長する。これにより縁石・舗装等の構造物と接触し、根が傷つけられ欠損し、そこから腐朽を生じる。</li> <li>• 根上がりにより、土系舗装では根が地表に露出し、ブロック舗装及びアスファルト舗装では舗装が破損しており、歩きづらい箇所がある。</li> </ul>	
<p>その他の問題</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 低木との競合により根系が伸長できる範囲が非常に狭く、乾期には水分の補給にも支障が出ると考えられる</li> </ul>	

図 7 課題の整理

## ■将来像の検討

### ① 基本方針

現在多く植栽されており、緑道のシンボルとなっているソメイヨシノを保全しつつ、倒木の危険性が高い樹木は伐採し、樹木の密度を減らしながら植え替えを行う。桜並木の景観を引き継ぐため、ソメイヨシノに似たコシノヒガンやコヒガンを主体に植え替えていく。

### ② 品種の選定

植栽基盤が狭く、ソメイヨシノのような大型樹種は根を十分に伸ばせないため、中型で横に広がらず比較的斜上型の品種を選定した。また、現在のソメイヨシノの風景を残したいという検討会参加者の意見より、ソメイヨシノに似た品種を選定した。

### ③ 植栽間隔の確保

現在は植栽間隔が近く、枝を伸ばせる空間が狭いため隣同士の枝が接している。また、今後樹勢の衰え等により桜を伐採した場合、同じ場所に補植しても両側の桜の日陰になり、成長できないため、伐採した場合にはすぐ同じ場所に補植せず、植栽間隔が8~10mになるように調整しながら植え替えを行う。

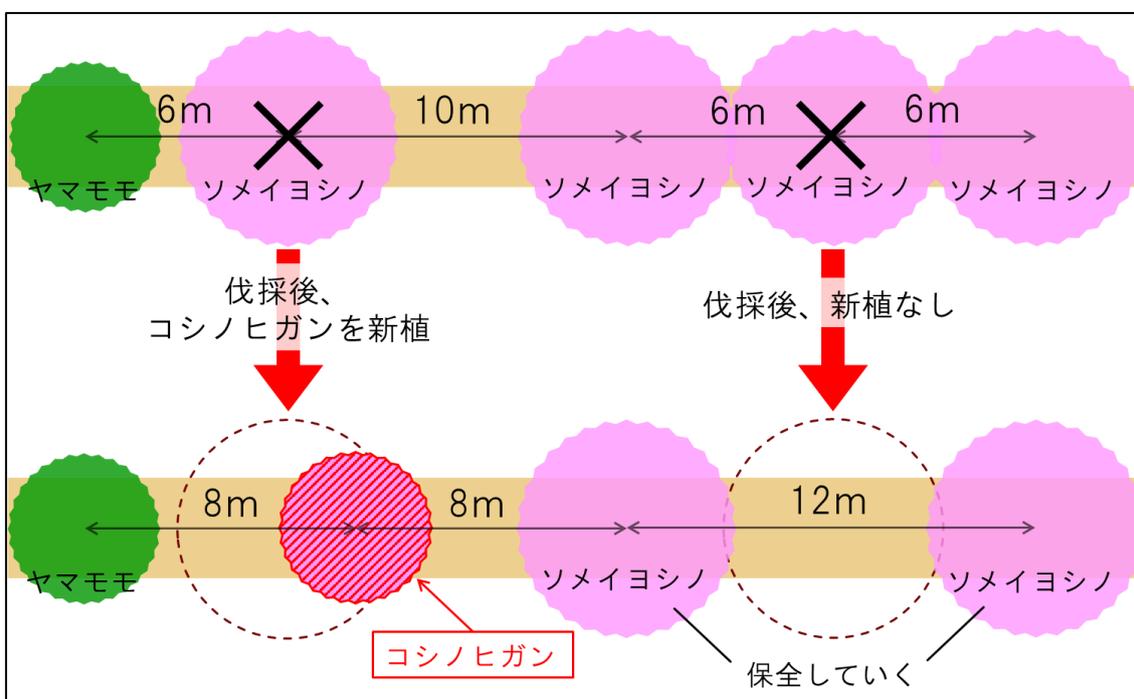


図 8 植栽間隔のイメージ図 (駒沢支流緑道)

## ■桜並木の将来像

桜並木の将来像についてエリア分けをして検討した（図9）。

### 柿の木坂エリア①

ソメイヨシノに似た中型のコシノヒガン、コヒガンに植え替えていく。

### 柿の木坂エリア②

ソメイヨシノに似た中型のコヒガンと、小型のオカメに植え替えていく。シダレザクラがまとめて植栽してあるエリアでは、既存のシダレザクラを保全していき、危険木となった場合は伐採後、シダレザクラを新植する。

### 柿の木坂エリア③

武蔵野の雑木林の雰囲気を残しながら、小型の落葉樹（ヤマボウシ、シモクレン等）及び小型の桜（マメザクラ等）に植え替えていく。

### 駒沢支流緑道

呑川本流緑道の将来像に合わせて、ソメイヨシノより小型で雰囲気の似ているコシノヒガンに植え替え、統一的な景観をはかる。

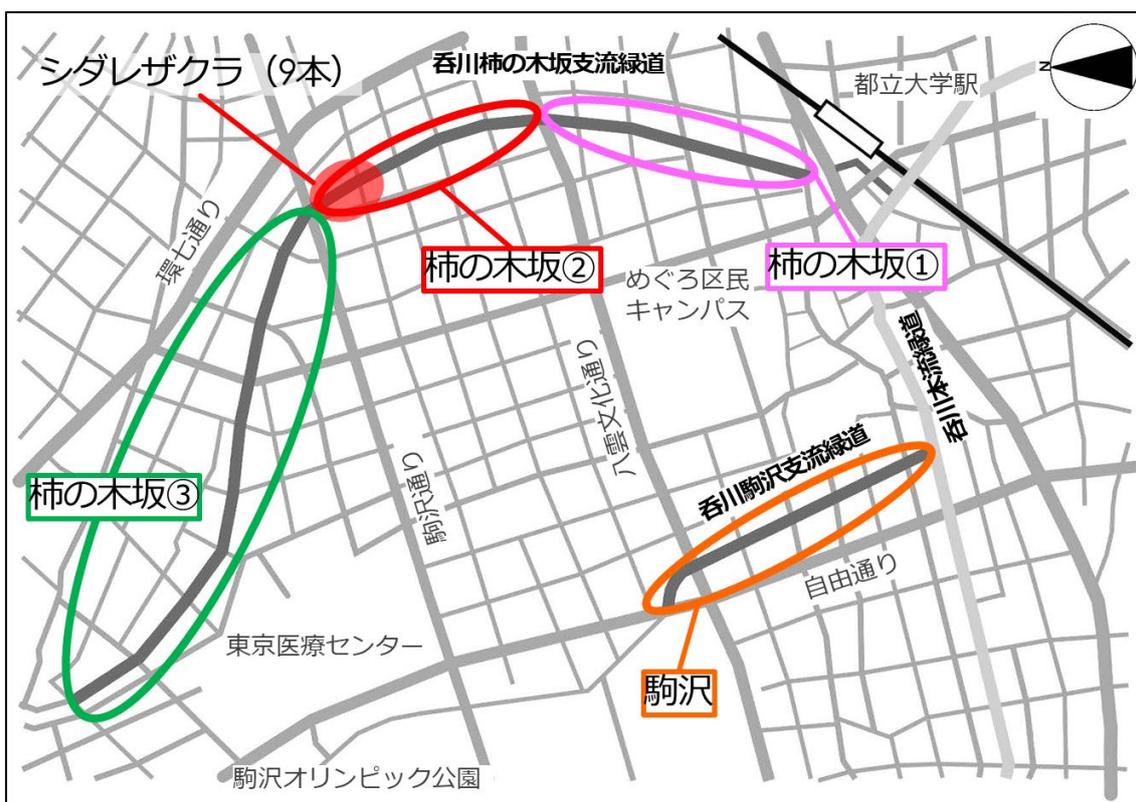


図 9 将来像エリア図



図 10 柿の木坂エリア①将来像  
(コシノヒガン、コヒガン)



図 11 柿の木坂エリア②将来像  
(コヒガン、オカメ)



図 12 柿の木坂エリア③将来像  
(小型の落葉樹、小型の桜)



図 13 駒沢支流緑道将来像  
(コシノヒガン)

## ■桜維持管理の検討

現在ボランティア（グリーンクラブ）による花壇の手入れ等が行われ、住民から愛されている本緑道について、桜を良好に育成していくためには、適切な管理や住民との協力が必要となる。

維持管理の 検討項目	内容
桜の育成、保護	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期的な樹木の診断</li> <li>危険木の撤去</li> <li>支障枝の剪定</li> <li>植栽基盤の対策（P9参照）</li> <li>根元の保護</li> </ul>
病虫害対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>腐朽枝の早期切除</li> <li>トラップ等による害虫の捕獲</li> <li>頻繁な巡視による病虫害の早期発見</li> <li>住民への周知</li> <li>害虫による歩道等の汚れに対する処置</li> </ul>
施肥	<ul style="list-style-type: none"> <li>つぼ穴の施肥（現場土、腐葉土、牛糞堆肥を混合し穴に入れる）</li> </ul> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="469 1137 896 1509"> </div> <div data-bbox="922 1137 1350 1509"> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div data-bbox="580 1518 820 1554">施肥（肥料の割合）</div> <div data-bbox="1031 1518 1270 1554">施肥（混合の様子）</div> </div>

図 14 桜維持管理の検討

## <植栽基盤の対策>

舗装下層の硬い土壌は、酸素と水分が不足している為、根にとって生育条件が悪い。行き場を失った根が、より通気性の良い方向を求めて、舗装材の下の軟らかい砂の層などに入し、舗装や縁石を持ち上げてしまう。

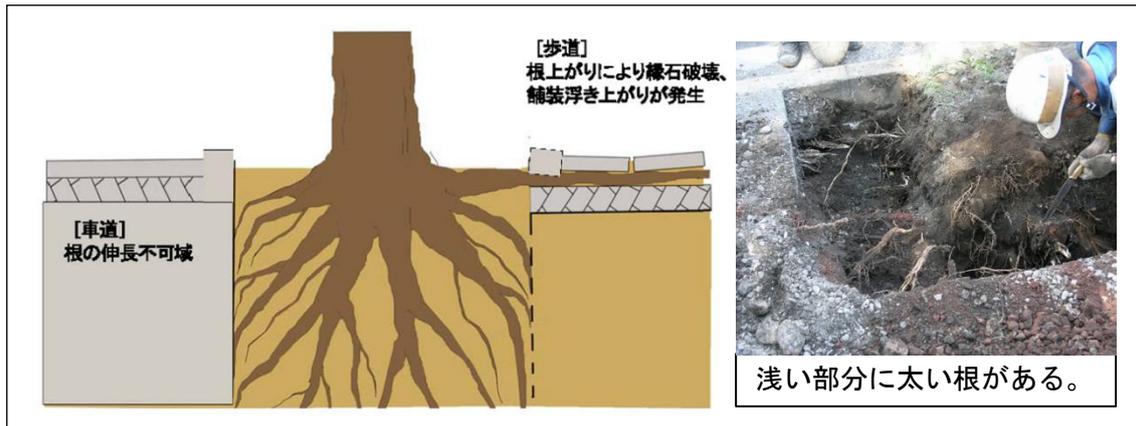


図 15 根上がり現象の実際

根上りを起こさず根系を伸長させる方法として考えられる案を図16に示した。これらの対策は既に各路線で実施されている。

防根シートの設置	<p>(イメージ図)</p>	最も根が伸長しやすい地表からアスファルト舗装の厚さ分、防根シートを設置し、舗装に影響を与えないようにする。舗装の下の土壌も柔らかくする必要がある。
酸素管の設置		酸素の供給及び水道の確保を行うことで、根系の生育方向を深い方向へ誘導する。

図 16 植栽基盤の対策 (案)

## ■住民参加による維持管理

住民の方々と協働で「桜守活動」を行い、サクラ再生実行計画に取り組む。

### ① 日々の観察

花芽と花数の調査	調査木の枝を採取し、短枝につく花芽、また花芽の中にある花数を数えることで生育状態を把握する。
開花日	<p>標本木の開花日を確認し記録する。</p> <p>開花日とは、標本木で5～6輪以上の花が開いた状態となった最初の日。満開日とは、標本木で約80%以上のつぼみが開いた状態となった最初の日。(気象庁HPより)</p>
新芽、落葉、紅葉の時期	標本木の新芽、落葉、紅葉の時期を確認し記録する。
枯枝とひこばえ	葉がついていない枯枝があるか確認する。枯枝は衰弱のサインである。また、ひこばえが多く生えてくると上の枝の成長が抑制されやがて衰弱する。
葉の大きさ	葉が明らかに小さくなっていないか、もしくは小さくなっている枝がないか確認する。
キノコ、腐朽	種類、数、ボリュームが増えていないか確認する。
虫害・病害	既に被害がある場合は、数、ボリュームが増えていないか確認する。

図 17 観察項目

- ② 定期的な水やり、施肥
- ③ ひこばえ取り
- ④ 落ち葉掃き

## ■その他の提案

桜と同じ時期に咲く、他の花色を組み合わせると、そのコンビネーションで美しさが増す。沿道の住宅に黄色や紫色の低木や草花の花が咲くと、さらに美しい緑道となると考えられる。地域で緑道とともに美しい景観を創出することができる。



図 18 コンビネーションの例